第１２１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年１０月７日提出）

１．題　目：「大学におけるキャリア支援の現状と課題」

２．日　時：　平成２７年　９月２４日（木）　１６：０５　～　１７：３０

３．場　所：長崎大学　文教キャンパス　グローバル教育・学生支援棟
　　文教スカイホール（４階）

４．主　催：就職委員会（就職支援室）

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［ ○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［ ○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［ ○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
今回、キャリア教育、就職支援等において先進的な取り組みを行っている法政大学より講師を招き、これまでのキャリア教育や就職支援の内容を点検しつつ、今後のキャリア教育を含むキャリア支援のあり方を学び、各部局等におけるキャリア支援の改善等に繋げることを目的とする。更には、長崎大学全体のキャリア支援等を強化するため平成２８年４月に設置予定のキャリア支援センターと、部局等との連携意識の醸成を目的とする。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
16：05　～　16：10　開会挨拶　堀内　伊吹副学長（学生担当）
16：10　～　17：20　講　　演「大学におけるキャリア支援の現状と課題」
　　―これまでを点検し、今後を展望する―
　　講　　師　法政大学キャリアデザイン学部（総長室付大学評価室長）
　　児美川　孝一郎　教授
17：20　～　17：30　質疑応答
17：30　～　17：35　閉会挨拶　堀内　伊吹副学長（学生担当）

９．参加者：４９名（発行対象者４６名（学外を除く））

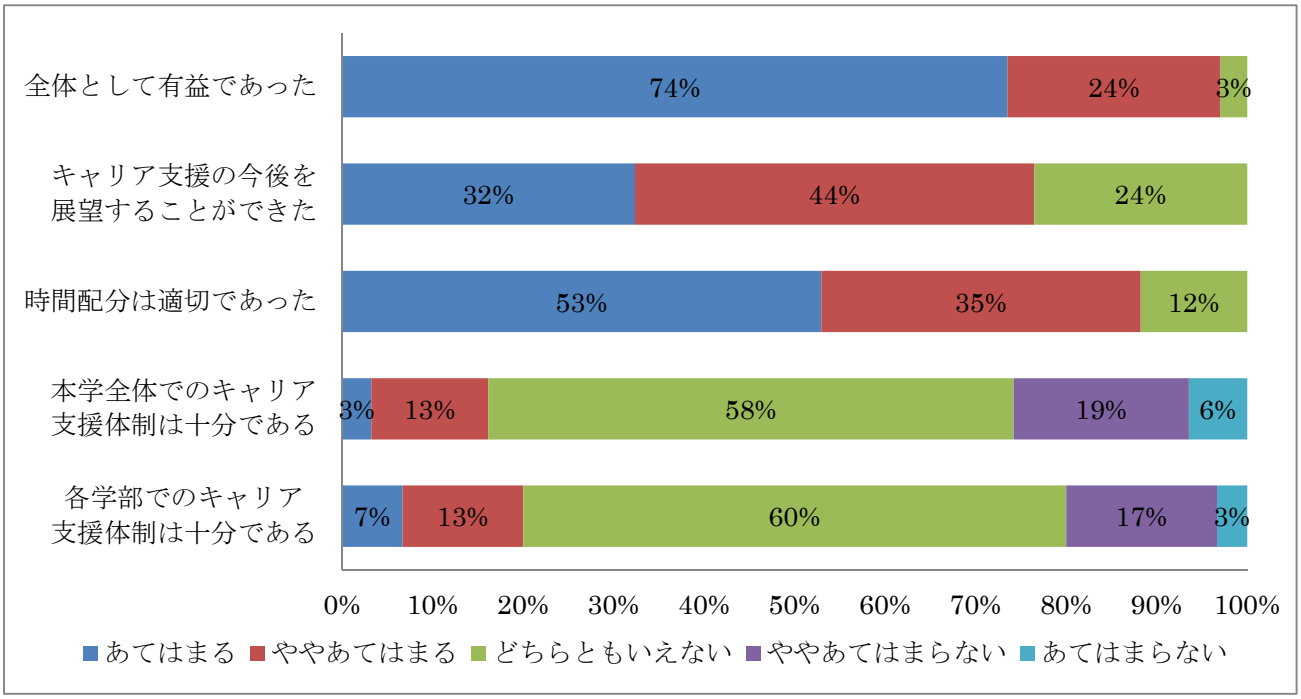
（内訳）

所属	集計	所属	集計
理事（教学担当）	1	環境科学部	2
副学長（学生担当）	1	病院薬剤部	2
副学長（広報担当）	1	大学教育イノベーションセンター	2
多文化社会学部	3	地域教育連携支援センター	1
教育学部	3	ダイバーシティ推進センター	1
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	1	文教地区事務部学務課	1
医歯薬学総合研究科　歯科法医学分野	1	経済学部支援課	1
医歯薬学総合研究科　感染分子薬学分野	1	障がい学生支援室	1
薬学部	1	学生支援部	20
工学研究科	2	外部（他大学）	3
合　計　49名			

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



以下自由記載欄のコメント

・　現在の学生が育ってきた背景がよくわかりました。

・　今の現状と今後どのように行っていけば良いか分かりやすかった。　就職がゴールだと思っている学生が多い。安定している所へ希望する人がほとんど。興味がある事を仕事にする人が減っている気がする。

・　質問の時間が少なかった。

・　大学のキャリア教育の在り方について望まれる姿の指針を見ることができました。　今日の学生の姿の指摘については頷かされることが多かったです。今後の業務に生かしていきたいと思います。お招きいただきありがとうございました。

・　大変勉強になりました。広い意味でのキャリア教育の重要性が理解できました。

・　先生のご所属の法政大学の手側が学べることができると良かった（別の機会にでも）　就職先としてぴったりとなる出口（市場）が小さく、他の出口も大学で学んだことを活かしたところを探すのが難しく、モデルも提示しにくい。

・　学生の現状をデータをまじえて示していただき、日々の学びや関わりの中でキャリア教育を意識した関わりが必要という点に納得した。このような研修をよりうける必要があると実感できた。

・　もっと多くの教職員に参加していただきＦＤを受けてもらってよい内容であった。　初年次から専門教育にまでいたるキャリアデザインの流れや科目授業設計　専門性を持った教員・専門職員の不足

・　他大学の具体的な事例を聞きたい

・　大変勉強になりました。日常的に直面している問題が整理されました。　指導する側も不安定な雇用状況下で激務に追われているその中で自身のキャリアデザインもままならない中で学生のキャリア支援を行っていくのは困難な面が多い気がしています。

・　講師のお話が明快で分かりやすかった。

・　教育者としてだけでなく小さな子を持つ親としても大変勉強になりました。まず家庭内からのキャリア支援を行おうと思います。

・　キャリア教育、支援はキャリア教育担当の先生だけに任せてはならない。教育全体がキャリア支援・キャリア教育でなければならないという点に同感する。　留学帰国後の支援の在り方

・　キャリア教育の重要性や奥の深さを知らされました。キャリア教育と専門教育の連携の重要性の観点から教員の援備者が少なかったのが残念であった。

・　キャリア支援だけでなく、大学の教育全体が変わらなければいけないと感じました。　本学のキャリア支援のしくみそのものがどのようなものなのか。　障がいのある学生のためにどんなサポートがあるのか。

・　キャリア教育支援に対する考え方の見通しが必要であることを理解できました。

・　キャリア支援のみならず教育全体の諸問題は概観できた。一方で諸問題を解決へ向かわせる具体的な方策についてもっと知見を深めたいと感じた。

・　学生の適性などのからみも聞きたかった。

・　次回もお願いしたい。

・　学生の実態を知って対応することの必要性を痛感しました。大学全体で組織的にできるかが難しい。

でもやらないといけない大きなテーマと思った。　全学部連携の手法・実例を知りたいと思いました。

- １年・２年の夏休みにキャリア授業を必修とする。
- 自分に詳細な情報がなかったため一般的な理解としてはとても役立った。
- 学生の育った背景がわかり，学生に合わせた対応が必要だと思った。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

参加者のアンケートの集計結果から、「全体として有益であった」、「キャリア支援の今後を展望することができた」という問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせるとそれぞれ、97％と 76％であり、「あてはまらない」と「ややあてはまらない」は両方とも０％であった。

このようなことから、講演内容については非常に評価が高かったといえる。

また、「大学全体でのキャリア支援体制は十分である」、「各学部でのキャリア支援体制は十分である」という問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて、それぞれ 16％と 20％であり、本学としては、今後されにキャリア支援体制を強化していく必要があると分析できる。

今回の講演会は、内容的に非常に有益であったとの自由記述意見も多く見られたが、教員の参加者数が少なかったことは、それだけキャリア教育や就職支援に関心がある教員が少ないと分析できることでもあり、今後キャリア支援に対する教職員の意識改革も必要であると総括できる。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：就職委員会
職　名：委員長（学生担当副学長）　　氏　名：堀内　伊吹
e-mail：horiuchi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１７８

１２．申請者の連絡先

部　局：学生支援課就職支援班
職　名：班長　　氏　名：橋口　洋二
e-mail：yoji@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１０１